

挨拶

1. 大沼直紀 国立大学法人筑波技術大学学長

こんなに多くの専門家の方々がアジア各国から日本にいらして頂いたこと大変うれしく思っております。このシンポジウムは筑波技術大学創立20周年を記念しての開催でもあります。

創設以来我々筑波技術大学では、国際交流をすすめてまいりました。例えば学術交流の分野でも米国、中国、韓国、ロシア、あるいはフィリピン、タイなどの特殊教育機関との交流をすすめております。さらに、ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴル、バングラディッシュ、マレーシア、インドネシア、などの国々における専門家の方々との交流をすすめております。国際シンポジウム会議も毎年進めており、今回は8回目の国際シンポジウムでございます。アジアの特殊教育は、ここ数年の重要なテーマとなっております。今年は、視覚障害者の高等教育と雇用、聴覚障害者を大きなテーマとしてあげています。今回の20周年記念は2つに分かれており、第1部は今回東京で行われている今日から3日間の会議です。そして第2部は筑波技術大学で11月1日から2日間にかけて開催されます。第2部では高等教育と雇用の分野について、とくに聴覚障害者について議論を深められることになっております。中国や韓国や日本の諸団体から聴覚障害者の専門家が集まり、各国の高等教育に関して議論を深め、姉妹校関係についても報告があります。

このAMINの会議については、やはり20周年記念を祝って開催されていますが、視覚障害者の雇用の拡大について、医療マッサージの領域について、そしてその業界について議論されます。私たちの様な障害者の能力開発の支援をしている専門家が、教育方法をどんどん新しくする、また進めていく責にあるのではないかと、そして各国の後身にノウハウを伝えていく責務があるのではないかと考えています。大学には200名の職員と300名の視覚・聴覚障害学生一同、学校をあげまして皆様を歓迎しております。この会議が成功するよう祈っております。

2. 笹川吉彦 社会福祉法人日本盲人福祉委員会理事長

AMINの第2回の会議そして設立総会に、アジア各国から遠路ご参加いただきました代表者の皆様に対しまして、心よりご歓迎申し上げます。昨年9月につくば市で筑波技術大学開学記念の第8回WBU・APアジア盲人マッサージセミナーを多くの関係者の方々の多大なご協力ご援助いただき開催することが出来、大きな成果を収めることができました。心から感謝しております。

改めて申し上げるまでもなく、マッサージは私たち盲人にとって重要な職種であり、今まで多くの方々がマッサージを通じて自立しております。私どもとしては、一人でも多くの方々がこのマッサージの技術を身につけて自立した生活ができる、そう期待しております。

J A I C Aの援助これまで5年間沖縄でマッサージのリーダー研修事業をおこなってきました。今年が最終年となるわけですが、その中で、今後どういう方向で考えていこうかということが話題になりました。幸いにもAMINが、昨年のセミナーのあとで開かれました準備会におきまして、ぜひ具体化してほしいという大変強いご要望をいただき、ここに発足をすることになったわけです。筑波技術大学は我が国における高等教育のメッカです。とくにマッサージにつきましては、我が国最高の知識・技術をもった大学でございます。そういう場で今後マッサージリーダーとして、アジア各国のみなさまがその知識、技術を身につけられ、アジア各国においてマッサージの普及に一層ご尽力いただけることを期待しております。今後とも皆様方が十分その実力を発揮させることを期待してご挨拶とかえさせていただきます。

3. Grace Chan WBUAP マッサージ委員会委員長

香港からご挨拶もうしあげます。

世界盲人連合アジア太平洋地域協議会マッサージ委員会を代表いたしまして筑波技術大学創立20周年に際し心よりお祝い申し上げます。

私と筑波技術大学とのおつきあいは1990年代前半にさかのぼります。中国の西安で開催された第1回WBU・AP マッサージセミナーに、海外より一番大勢の代表団を日本から派遣いただきました。このセミナーは香港盲人補導会と中国障害者連合会共催でおこなわれました。以来筑波技術大学の方々には、マッサージをアジア太平洋地域の視覚障害者の、職業として推し進める活動にサポート頂き、教育や訓練や資金手当てを通じ、マッサージのプロフェッショナルリズムの追及にご尽力いただいております。結果としてアジア太平洋地域の多くの視覚障害者の人生がかわりました。視覚障害者がプロの医療マッサージ師となっていたのです。家族を養い社会の一員として尊重されてきました。筑波技術大学や日本の皆様の努力のおかげで彼らの人生が変わったのです。

AMINの設立は喜ばしいことです。ネットワーク構築については2006年9月につくばで開催されたWBUAP マッサージ委員会理事会で提案されました。視覚障害者が営むマッサージは医療や専門性に向かうべきだということはわたしたちの合意するところです。マッサージ委員会でもマッサージの専門性を高め、マッサージ従事者間のコミュニケーションや交流を促すことをめざしております。以来1年が経ちネットワークが設立されました。すでに2回目の会議です。ネットワークは必ず医療マッサージ推進の場となり多くの視覚障害者に有益となるでしょう。筑波技術大学の皆様には視覚障害マッサージ従事者の機会拡大と職業的地位向上に努めて頂き、この場を借りてお礼申し上げます。19世紀の有名なアメリカ陸軍ペイトン・コンウェイ・マーチ将軍がこのように述べています。「すばらしい不思議な自然の摂理がある。それは、私たちが人生で最も希求するもの、幸福と自由と心の平安は、同じものを他の人に与えることで得られるのだ。」と。皆様のご尽力で多くの視覚障害マッサージ従事者の人生が変わり幸せに暮らすことができるようになりました。そしてそのかわりに将軍の述べた秘密と幸福の道を見出すことができたのです。

4. 石井靖乃 日本財団国際協力グループ

BHN（ベーシック・ヒューマン・ニーズ）チームリーダー

昨年に引き続きAMINの会議が開かれることとなり、たいへん喜ばしいことであり、大きな期待を寄せております。東アジアからはモンゴル、韓国、台湾、香港、東南アジアからはタイ、ベトナム、マレーシア、カンボジア、ラオス、フィリピン、インドネシア、そして南アジアからはバングラデシュと、合計12の国・地域からお集まりの皆様、そして日本各地からお集まりの皆様、また開催に当たりご尽力いただきました筑波技術大学の皆様はこの事業の支援者として御礼申し上げます。

さて、今年の会議から1年が経ちました。去年も参加なさった皆様、この一年間AMINについて皆様の国でどのような進捗があったのでしょうか？是非お話をきかせていただきたいと思っております。また、今年初めて参加なさる方も含め、皆様それぞれ国を代表してこられた方々ばかりだと私は理解しております。ですから、皆様には「それぞれの国がAMINに何を求めるのか？」あるいは「AMINにどんな貢献をして下さるのか？」について国の代表として率直なご意見をお聞かせいただきたいと思っております。

国際的なネットワーク事業は1カ国だけで意思決定し実施できるものではありません。緊密なコミュニケーション、対話を通してのみ成り立つものだと思います。皆様方には是非この会議期間中に、AMINが視覚障害者の職業自立のために有効に機能するための知恵を出し合っただけの事を願っております。最終日にはAMINの将来像について明確な道筋が示され、具体的で実効性のある事業計画が出来上がることを期待して、会議の成功をお祈りいたします。

5. 緒方昭広 日本理療科教員連盟会長

本日ここに第2回目のAMIN会議が、アジア11カ国の代表者の方をお迎えして盛大に開かれたこと、心からお祝い申し上げます。11カ国の海外から起こしのみなさま、ようこそ日本にいらっしゃいました。明日の本会議で正式にAMINが発足します。それにより公に本会議が認められることとなると思います。このAMINを運営されている、大沼学長をはじめとする筑波技術大学の方々、この活動に欠かせない大きな助成をされている日本財団の方々に、日本理療科教員連盟を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。今は小さい火種かも知れませんが、ここにおられる筑波技術大学の職員の皆さま、また強い意志をもってここに集まれた11カ国の代表の方々、それらの方々がこの活動の成功を強く信じ活動していけば、必ず成功すると確信しております。日本理療科教員連盟は、50年以上にわたって日本における視覚障害者の教育や自立支援を行ってきました。グローバルな視点での、積極的な貢献が求められていると本連盟でも感じています。優秀な人材が多くいる団体です。一層のご協力をお約束して、お祝いの言葉とさせていただきます。

総会趣旨説明

形井秀一 AMIN 推進委員会副会長

今回の会議では WBUAP 時のレポートよりさらに詳細なリアルレポートを提出いただきました。昨年の準備会を踏まえ次のステップに進むための討議をするためです。明日の AMIN 設立総会も非常に大きな今回の会議の目的だが実質的に大切なのは、中身をどうするかです。今回皆さんに提出頂いたアンケートとリアルレポートは、詳細に議論する為の材料として活用して頂いて、中身の濃い議論をしていきたいと思っております。アジアで視覚障害者の職業自立を考えるに当たり、按摩マッサージを軸にしてある程度の所までのステップを踏めるのではないかと期待を持ちながら WBUAP の活動もそうですが AMIN もアジアのその動きの支援をしたいと考えています。

世界の情勢を考えると按摩マッサージ・鍼灸がいま世界的に注目されています。1980 年から 1990 年代で世界的に健康の問題がクローズアップされており、補完代替医療 (CAM) が注目されています。西洋医学が疾患に対する医療である一方、東洋医学は日々の生活が身体的・精神的な問題を生み出しているといった考えに基づく医療であり、近年はこの考えを持たなければ真の健康を語れないのではないかという世界的な考えに至っています。東洋医学の一分野であるマニピュレーション、手で身体に触れ骨のゆがみを是正し・鍼灸で治療し健康増進させていくことがもう一度求められている、あるいはそういった療法が、いままで無かった国にとって新しい療法として受け入れられている傾向が世界的にあるわけです。このことは既に WHO が 10 年来取り組んでいる事で、その成果が少しずつ報告されつつあるところです。

このような世界な流れの中で、アジア地域に面々と受け継がれてきた按摩や鍼灸が見直されており、多くの方が求め、それにどう応えるかが迫られています。それと同時に、視覚障害のある人々は、この領域に最も職業自立させるときに力を発揮できる要素が大きいのではないかといった考え方が加わり、現在この AMIN のような活動をしているわけです。昨年の会でも話が出てきましたが日本では 300 年前から鍼や按摩を教育する組織があつて活動を行って来ています。そしてそのノウハウは現在アジアの視覚障害者の職業自立に対して大きな支援ができるのではないかと考えております。そのような気持ちから AMIN 活動を軌道に乗せ、みなさんが職業自立の支援をすることが AMIN の目指すところです。そのためにはアジア各国の実情を踏まえ、次のステップにつなげることが大切だと考えています。

AMIN 推進委員会は、年 1 回このような会を持ち、ネットワークの推進をすることを考えています。もう一つは、海外講習会を行うという企画を立てています。すでに昨年度は 2 か所で行い、今年度は 4 か所あるいは 5 か所での講習をする計画が進んでいます。

そのための教科書作成が必要であり、すでに日本語の教科書はできています。今年度中に英語に翻訳し、その後各国の言語に翻訳する予定です。これには少し時間がかかるかもしれませんがぜひ進めていきたいと思っております。もちろん墨字だけでなく点字・録音して活用することを視野に入れていきます。

AMIN 推進委員会は現在 6 名で活動していますが、海外講習会・その国の実情に合わせた推進をするには 6 名では足りないため、日本国内で AMIN 活動に賛同して頂ける方々の登録制度である BMIN を作りました。現在 70 近い組織、30 名の登録が完了しています。BMIN の方々には、海外講習会、教科書執筆にご協力いただいております。

明日の総会では、AMIN の国々から多くの意見をいただいて進めていきたいと考えています。そのために、今日の午後、明日の午後に行われる公開ヒアリングでは、かなり詳細な話ができることを期待していますしそうしたいと考えております。視覚障害者の方々が実際にどんな生活をしていて、職業自立に関して何が問題になっているのかを、按摩・鍼を通じてどういう方向で方策を立てていくことができるかを深く論議したいと考えております。こういった形で 2 回目の会議を持たれたことをうれしく思っておりますが、今回は会議以外の時間にもいろいろな話し合いが出来ればと思います。